

vol.

14

Sep.2022

市史編さん広報紙

たちかわ物語

TA CHI KA WA MO NO GA TA RI



左：東京五輪の聖火リレー 昭和39年(1964) 上段：子供迎え火 昭和50年(1975)頃
下段左：砂川分水で遊ぶ子どもたち(柏町) 昭和36年(1961)頃 下段右：すずらん通商店街 昭和45年(1970) すべて立川市歴史民俗資料館蔵

表紙の写真は、これまで立川市が収集してきた写真資料の一部です。行事の記念に撮影されたものや、市が記録として撮影したもの、趣味の一環として撮影されたものなど、撮影の目的や対象は様々です。

第14号では、写真がどのように資料として活用されるのか、写真から何がわかるのかを、実際の資料を見ながら解説します。何気ない日常の中に積み重ねられてきた「くらしの記録」が、歴史の一部を担っていることをお伝えできればと思います。

「資料をよむ」では「大和田遺跡第1・3・4地点発掘調査資料の縄文土器」と題し、立川市の地形を分析しながら、大和田遺跡の概要と特徴を紹介します。また、先史部会が担当する令和4年12月の市史編さん関連講演会では、科学分析による調査の成果について講演する予定です。

目次

・部会短信	3
・市史のつくりかた	
写真でたどるくらしの歴史	4～7

・令和4年4月～令和4年9月活動報告	11
・正誤表掲載のお知らせ	11
・市史編さん講演動画配信のお知らせと 令和4年度講演会のお知らせ	12

連載

・立川おっこぼれ話「立川飛行場100年—地図にその変遷をみる—」	2
・資料をよむ ～大和田遺跡第1・3・4地点発掘調査資料の縄文土器～	8～10

立川飛行場100年 ー地図にその変遷をみるー

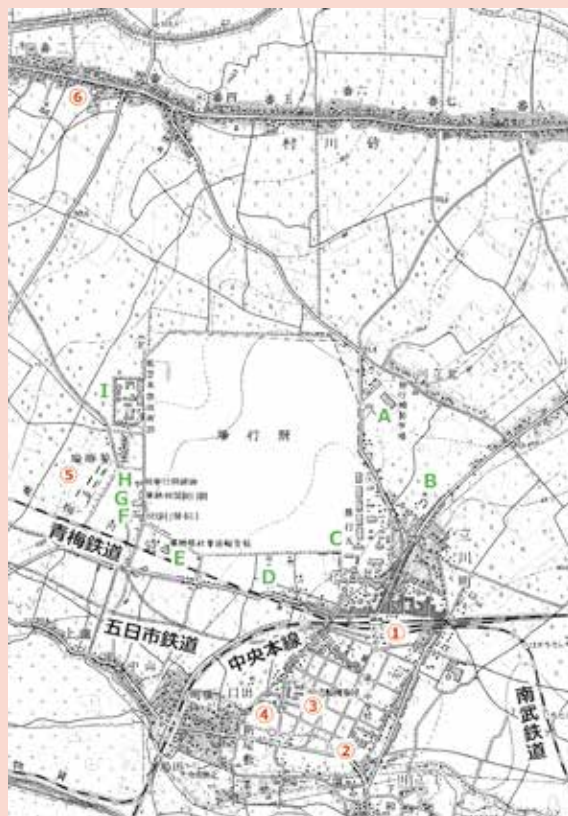
令和4年(2022)は、大正11年(1922)に立川飛行場が開設されてから、100年の節目にあたります。この出来事は、立川地域において近代の歴史の画期となるもので、『資料編 近代2』(令和3年刊)も、立川飛行場の建設が決まった大正10年以降を対象としています。飛行場は軍民共用の時期には欧米からの飛行機到着地や、国内便・国際便の東京からの出発地にもなりました。また、戦闘隊や軍事施設が配置されるなど、立川は、「空都」として賑わいを見せていました。

下に示したのは大正10年と昭和5年(1930)の立川・砂川地域の地図で、立川飛行場が開設される前と後の状況がわかります。その変化を見るため、両方の地図にある施設を①～⑥で、昭和5年の地図のみにある施設をA～Iで示しました。大正10年の地図の通り、飛行場用地のほとんどは山林原野や桑畑などでした。用地内にあった民家と伝染病隔離病舎と電話線は全て移転となり、村道は砂川・立川両村での協議を経て廃止・付替が行われ、飛行場敷地の周囲に道路が建設されました。飛行場は両村の集落の中間あたりに位置し、江戸時代は「武蔵野」と称された山林原野でした。昭和5年の地図からは、飛行場ができた後の周辺の変化を見ることができます。飛行場の周囲には飛行学校や、新聞社・輸送会社の格納庫などができ(E～H)、昭和8年までの軍民共用の時期の特徴を示しています。また、立川駅(①)が拡張されて南武鉄道と五日市鉄道が乗り入れ、駅の南では耕地整理事業による区画道路が確認できます。

地図からは、立川飛行場の開設後にその周辺が発展した様子がわかります。戦後、飛行場は米軍基地となり、昭和52年に返還されました。跡地は昭和記念公園、広域防災基地、ファール立川などになりました。



▲1/25,000地形図 大正10年(1921)測図 「府中」を加工



▲1/25,000地形図 昭和5年(1930)部分修正測図 「府中」を加工

- ①立川駅 ②府立第二中学校 ③東京府原蚕種製造所 ④立川村役場 ⑤子安農園立川養豚場 ⑥砂川村役場
 A 石川島飛行機製作所 B 立川高等女学校 C 飛行第五聯隊 D 立川陸軍病院 E 日本航空輸送会社格納庫
 F 御国飛行学校 G 朝日新聞社格納庫 H 日本飛行学校 I 陸軍航空本部技術部

※国土地理院旧版地図

この内容についての立川市史関連講演動画を、立川市動画チャンネルで公開しています。
 市史編さん関連講演動画一覧のページは下記のURLまたはQRコードからアクセスできます。
 (立川市のホームページ内にある立川市史のページへ飛びます) *令和5年3月まで
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/douga.html>





部会短信 (令和4 (2022) 年度前期)

先史部会

令和4年度末に刊行する『資料編 先史』の編集作業を進めています。『資料編 先史』は、先史部会が平成28年度からおこなってきた調査の集大成です。立川市域の地形や古環境の説明、旧石器時代・縄文時代草創期から古墳時代までの考古資料の紹介、科学技術によって明らかになった先史時代の市域の様子、市の埋蔵文化財行政の歴史など、内容は多岐にわたります。市民の皆様在先史時代の市域をわかりやすくお伝えすべく、委員の間で議論を重ねています。



資料編レイアウト作成の打ち合わせ

古代・中世部会

『調査報告書 古代・中世編1』の刊行に向けて石造物調査を進めています。普濟寺の国宝六面石幢に関連して、埼玉県内にある六面石幢の調査を行いました。昨年実施した毛呂山町の山根六角塔婆と東松山市にある正法寺六面幢に続き、今年は小川町大聖寺にある暦応3年(1340)建立の六面石幢について三次元計測調査を実施しました。六面石幢調査以外にも、市内では諏訪神社にて阿弥陀如来坐像の調査、小平市の円成院では柴崎町に明治8年まであった満願寺から移された薬師如来坐像の調査、國學院大學博物館では柴田常恵拓本資料の調査を行いました。



小川町大聖寺での三次元計測調査風景

近世部会

『資料編 近世2』の刊行に向けて調査を進めています。現在は感染症対策にも気を配りながら、個人宅での史料調査も継続的に行っています。柴崎村同様、砂川村にも数多くの近世史料がありますので、まずは全容の把握や整理に時間をかけています。

また砂川地域の調査の一環として、近世部会では巡見も行いました。街道や上水沿いに開発された砂川の村々の姿は、現在の地割に名残をとどめています。古文書だけでなく、地域に残された様々な痕跡を手掛かりに、近世の村の姿に迫っていききたいと思います。



西砂地域巡見のようす

近代部会

『資料編 近代1』の刊行に向け、引き続き掲載する資料を選び、原稿化する作業を行っています。資料調査は国立国会図書館・立川市歴史民俗資料館・市内旧家などにおいて、実施しています。また、市史編さん室内でも寄贈資料の整理・撮影等を行いました。

また、3月より、市史編さん関連講演動画を、立川市動画チャンネルで公開しています。令和3年3月に刊行された『資料編 近代2』の内容に関わり、立川駅・立川飛行場周辺の地図や写真などを用いて大正・昭和の立川のくらしを紹介しています。



講演動画使用の写真 立川飛行場と陸軍機(昭和8年(1933) 立川市歴史民俗資料館蔵)

現代部会

『資料編 現代2』の刊行に向けた調査が続いています。市の行政文書の調査では、この間に、米軍基地に関する新規資料が多く見つかりました。とりわけ、昭和52年(1977)に返還された米軍立川基地については、訓練の実施や関連施設の整備のほか、敷地の利用をめくり、市が米軍だけでなく、都や政府を相手に様々な交渉を行ってきた記録が残っていました。そして、返還後の立川基地の跡地が広域防災基地として整備されていく過程は、基幹インフラの整備などの面で、市のまちづくりの進展と深く関わっていたことが確認できました。いずれも、立川市の現代史に欠かせない一側面であり、引き続き調査を進めていきます。



整備が進む広域防災基地の航空写真(平成3年頃撮影、立川市蔵)

民俗・地誌部会

令和5年度に刊行予定の『資料編 砂川の民俗』に向けて準備を進めています。現在は感染症対策を行って、民俗調査を再開しています。砂川地区では、幸町、西砂町の個人宅を訪問し、聞き書きを実施しました。また旧砂川小学校のものと考えられる校服を借用し、実測と撮影をしました。

『別編 民俗・地誌』の刊行へ向け並行して柴崎地区の調査も行っています。市内で唯一多摩川梨を栽培している農家や、立川駅南口の呉服店へお伺いしました。また今年度より各地で例大祭などが再開しつつあるため、祭礼調査も進めています。

聞き書き調査とともに、写真やその他関連資料の入手にも努めています。引き続き様々な角度から調査と資料収集を続けてまいります。



多摩川梨農家 聞き書き風景

写真でたどるくらしの歴史

新編立川市史編さん事業では、『資料編 写真集』の令和5年度末刊行に向け、現在資料の収集を進めています。今回の特集では、写真が持つ資料としての側面についての解説と、収集方法や実際の調査の流れを紹介します。

歴史資料—記録と記憶

一葉の写真には、その写真が撮影された瞬間の街並みや、人びとのくらしが、ありのまま「記録」されています。さらに、そのありのままの姿は、見た人の思い出や感情などの「記憶」を呼び起こすきっかけにもなります。その「記憶」からは、地域の思いがけない歴史が浮かび上がることも珍しくありません。

歴史研究では、写真のこのような特性に着目しながら、より多様な視点から人々の生活の営みを探っていきます。

「記録」と「記憶」のつながり

・大規模な催事や印象的な出来事から呼び起こされる個人の思い出



・個人的な記念や地域の記録を収集することで形づくられる記憶



資料としての写真—写真のどこに注目するか

写真技術が日本に入ってきた幕末から明治にかけては、カメラ（写真機）は高価で貴重だったため、撮影する機会が限られていました。そのため、写真は古ければそれだけで歴史資料として扱われます。カメラが広く普及した昭和から現在でも写真は歴史資料になりえますが、その点数は膨大であり、全てを資料として扱うことはできません。ここでは、市史編さん係が調査の際に注目しているポイントを紹介します。

撮影のきっかけ

- ・記録
- ・記念
- ・趣味
- ・気まぐれ（余ったフィルムの消費など）

確認や証拠のために撮影されたものや、行事の記念に撮影されたもの、撮影者の美的感覚で撮影されたもの、公私問わず、撮影のきっかけは様々です。たまたま撮影した何気ない写真の中にも、重要な情報が隠れている可能性があります。



特別なきっかけでなくても、何気ない日常の風景に重要な情報が残されていることがあります。

写真に写りこむ情報

- ・人、服装
- ・風景
- ・建物
- ・文字情報（看板など）

写真に写りこむものには、意図して撮影したものと偶然写りこんだものの二通りあります。撮影者が記録したかったものが重要なこともあれば、背景にたまたま写りこんだものが重要なこともあります。

また、文字情報があれば他の資料と組み合わせることでより詳しい情報を得ることが可能です。



すでに資料として活用されている写真には、家族や職場・学校での集合写真、お祝いの席での食事風景、昔の街並みなどがあります。



写真にまつわるエピソード

撮影のきっかけと被写体を含めた、写真にまつわるエピソードを所有者の方にお聞きします。当時の時代背景や思い出を収集することで、記録に残りにくい、人々の記憶にひもづいた歴史を調べます。

写真は、文字だけでは伝えきれない多くの情報を克明に残すことができます。気づかぬうちに刻々と移り変わる「現在」を、視覚的に記録できるのが写真資料の強みです。

写真収集・調査の流れ

市史編さん事業では、これまで市で集めてきた写真資料の再整理・再調査と、新たな写真資料の発見を目標としています。ここからは、写真資料を見つけるためのおおまかな調査の概要を解説します。

調査の準備

● 目的の設定

まず、市史編さんは市の歴史を調査するのが目的なので、調査の対象も「立川市内」か「立川に関係する個人、機関など」に限られます。その中で特定の時代・地域・組織・できごとなどの条件を設定し、調査へと進んでいきます。

● 事前調査

実際に調査に入る前に、どこへ調査に行くべきか検討します。公的な機関で情報収集することもあれば、個人や団体からの紹介を経て調査に向かうこともあります。調査の目的ごとに調査手順や写真にまつわる質問を検討します。

調査先の例

- ・立川市所蔵の公文書の調査（広報、お祭りやイベント運営、都市開発、防災関係など）
- ・企業、個人商店、商工会などの商業関係
- ・自治会、婦人会、文化芸能保存会などの市民団体関係

調査の実施

調査の目処が立ったら、対象となる個人・団体への調査依頼を出します。調査の趣旨を説明し、ご了解いただけた場合、ご希望の時間と場所（ご自宅、施設など）で調査を実施します。

内容の確認

写真について、前ページに示したような情報があるかどうかその場で確認します。整理を進める中で、後日改めてお話をうかがう場合もあります。

権利の確認

撮影したのがご本人かご家族か、今後の連絡先をどうするかなど、写真の権利について確認します。

利用の確認

刊行物への掲載許可や、掲載時に所有者のお名前を併記するなど、写真の利用の詳細を確認します。

借用書または寄贈申し込み書の作成、取り交わし

資料を借用する、または寄贈を受ける場合、必要事項を記入した書類を作成します。その際控えを作成し、双方に情報が残るようにします。



調査の際、写真の内容を確認しながら、撮影された時期や場所、当時の状況などをお聞きします。また、関連する他の資料（文書や冊子、刊行物など）がないかお尋ねする場合があります。

調査後—整理・管理

資料の整理・返却

写真の状態を確認し、複写（撮影・スキャニング）します。借用の場合、資料を速やかに返却します。

目録の作成

資料提供者ごとに目録を作成します。

掲載承諾

実際に刊行物に掲載する前に、改めて資料を掲載してよいか資料提供者に確認します。

公開、献本

調査にご協力いただいた方々には刊行された書籍をお配りして、どのように資料が活用されたかご確認いただいています。

『資料編 写真集』の役割

土地開発や交通・通信の発達など、わたしたちの身の回りの変化はめまぐるしいものです。ですが普段はその変化を意識しにくく、一方で事故や災害など、予期せぬ形で変化を強いられることもあります。

『資料編 写真集』では、わたしたちの生活や環境を記録し、より分かりやすくお伝えすることを目指しています。写真資料を読み解くことで歴史をより身近に感じ、立川の特徴や他地域とのちがいを発見するきっかけになればと思います。

写真の読み解き方—根川・琴帯橋周辺の写真を例に—

ここでは、収集した写真からどのようなことがわかるか、他の写真との比較を通じて紹介します。

A-1 根川河畔で休憩するひとびと（撮影：昭和30年前後、錦町 小川司さん提供）



この写真は、市民の方から提供を受けたもので、根川の土手に立つ桜の下で談笑している男性たちを写したものです。

写真に写る桜の葉や土手に生える草の茂り方から、5月頃に撮影されたと推測できます。また、道路を避けて車座になっている男性たちの前には湯飲みや小皿、瓶、ヤカン、寿司桶などが見えます。

ここに注目！

①根川に架かる橋（きんたいばし琴帯橋）

コンクリート製の橋（昭和9年（1934）竣工）が見える。この橋は柴崎町四・五・六丁目の境になっている。

②川面の様子

橋の手前（上流側）の水面は静かで、流れは緩やかに見える。

③川岸の様子

橋脚の間から見える川岸には、護岸の石積みが見える。

④周辺の様子

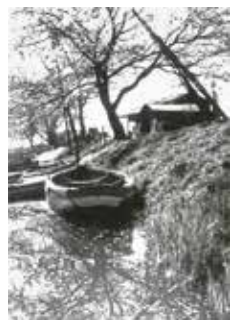
平屋の倉庫のような建物が見える。



根川（現在の根川緑道）

『たちかわ物語』2号で紹介したように、根川は大正時代以降、土手に桜が植えられ、春には花見客で賑わいました。また、昭和20年代までは貸ボート乗り場があり、船着き場には茶店が建つなど、当時から根川は人々にとっての憩いの場でした。

根川の船着き場と茶店（撮影：昭和16年、立川市歴史民俗資料館蔵）▶



写真にまつわるエピソード

提供者によるとこの写真は、昭和30年前後に、根川から近隣の農地に水を引いていた堰や用水路の手入れをした後、休憩しているところを撮影したものだそうです。用水路は、琴帯橋の上流から根川の南側に2本あり、手入れ・清掃作業は、毎年5月1日にそれぞれの用水路を利用するひとびとによって行われていたが、昭和40年代後半に、根川から取水できなくなったことにより、利用されなくなったとのこと。

B 根川に架かる琴帯橋とその周辺（撮影：昭和16年、立川市歴史民俗資料館蔵）

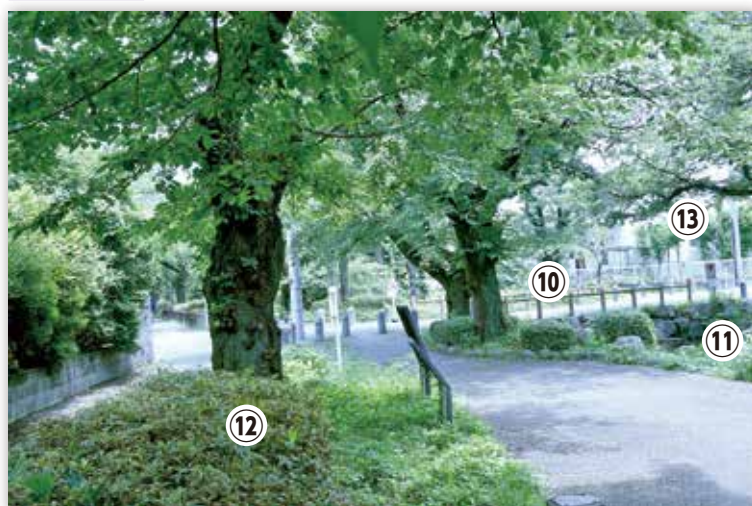


この写真は、A-1の写真より10年以上前に琴帯橋の東側（下流側）から撮影されたもので、市に寄託されています。橋の周辺に写る桜の様子から、4月中旬頃の撮影と推測されます。

ここに注目！

- ⑤根川に架る橋（①に対応）
琴帯橋の欄干や橋脚は変わらないように見える。
- ⑥川面の様子（②に対応）
川は兩岸沿いを流れ、中洲には草が茂っている。
- ⑦川岸の様子（③に対応）
橋台（橋と道路の接合する部分の土台）はコンクリートで固められているものの、まだ護岸の石積みは見られず、土手の斜面には草が茂っている。
- ⑧土手の様子
桜の幹はまだ細く、枝葉も少ない。桜の根元には、風などで倒れたり曲がったりするのを防ぐための補強がされていることから、植えられてからあまり年月がたっていないと思われる。
- ⑨周辺の様子（④に対応）
送電線を支える鉄塔が建っているほかに建造物は見られず、農地が広がっている。

A-2 現在の根川河畔（撮影：令和4年6月、市史編さん係）



この写真は、写真A-1とほぼ同じアングルで現在の様子を市史編さん係が撮影したものです。

根川に流れ込んでいた残堀川は、昭和47年（1972）に洪水対策として、立川橋（琴帯橋の上流部）辺りで流路変更が行われました。立川橋近辺から下流部の根川は廃河川として埋め立てられましたが、現在は根川緑道として整備され、写真のような緑あふれる水辺の遊歩道となっています。

ここに注目！

- ⑩根川に架る橋（①に対応）
根川の埋め立てによって琴帯橋も当時の姿ではなくなり、欄干を模した柵には「琴帯橋跡」、「きんたいはしあと」というプレートがはめ込まれている。
- ⑪川の様子（②に対応）
遊歩道の幅だけ、写真A-1・Bよりも川幅が狭くなっている。
- ⑫川岸の様子（③に対応）
写真A-1で男性たちが座っていたのは、この植え込みの辺りで、茂みと遊歩道の境辺りが、川との境だったと思われる。
- ⑬周辺の様子（④に対応）
琴帯橋のすぐそばまで、建物が建てられている。



琴帯橋跡（撮影：令和4年7月、市史編さん係）▶

おわりに

ここでは、これまでに市民の方から提供していただいた写真から、撮影当時の様子を探るとともに、前後の時代に撮影された同じ地域の写真と比較することで、風景の移り変わりを見てきました。こうした写真のひとつひとつが地域の歴史や風景の変化を物語る資料になります。また、そうした古い写真にまつわる思い出話、体験談も貴重な情報になります。

市史編さん事業では、このような昔懐かしい立川・砂川の風景や建物、暮らしの様子などが分かる写真を探しています。昔の立川・砂川を写した写真をお持ちの方はぜひ市史編さん係にお知らせください。また、撮影した当時の思い出やエピソードをお聞かせください。

資料をよむ

～大和田遺跡第1・3・4地点発掘調査資料の縄文土器～

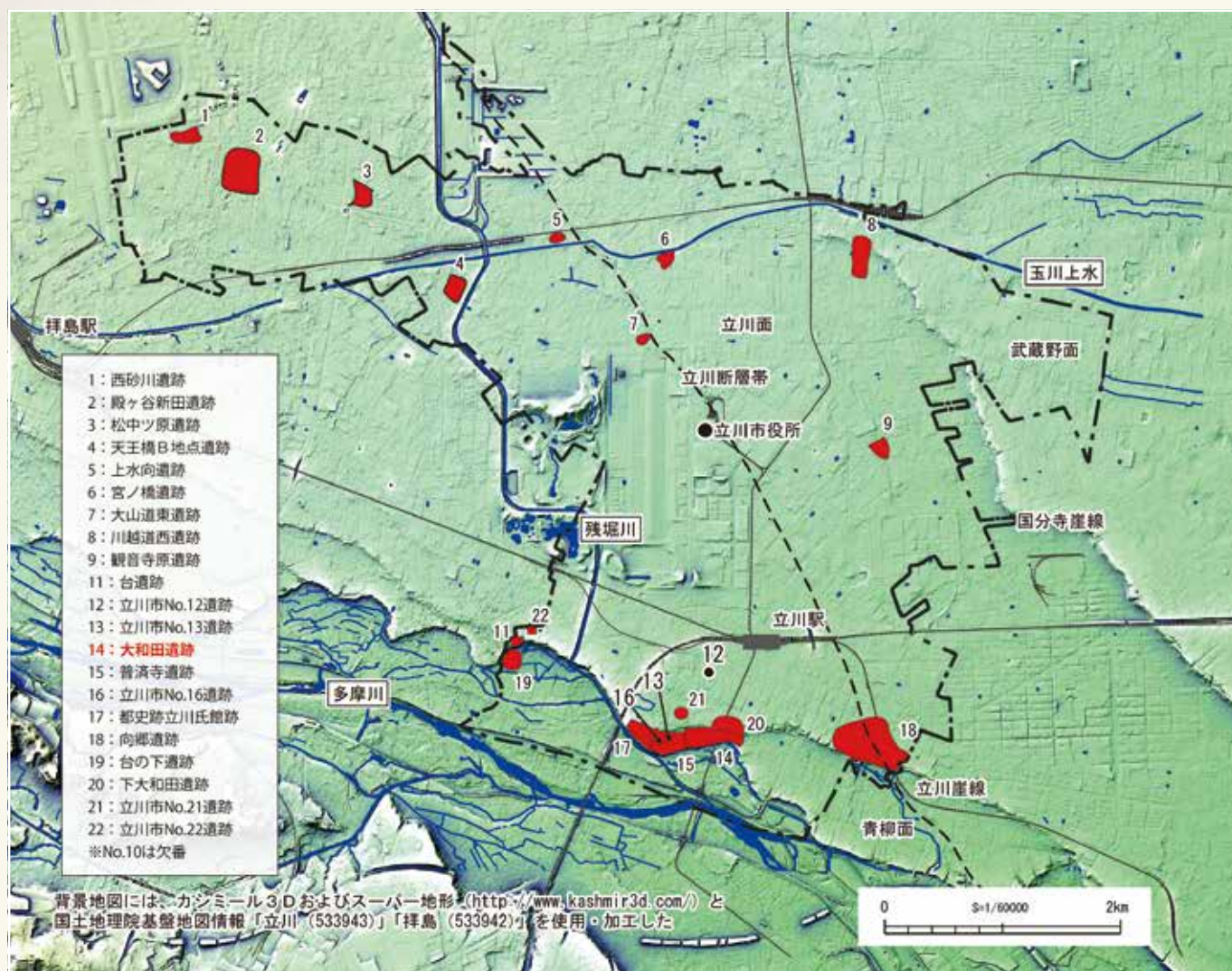
先史部会主任調査員 秋山道生



はじめに

市民の皆様、お住まいの区域により距離感は異なりますが、日常の生活において道路等を原則東西方向に移動する場合は坂をほとんど感じないのに対し、南北方向はある地点で比較的大きな高低差（坂）が存在することを感じておられますか。これは多摩川が形成した河岸段丘の崖線がほぼ東西方向に存在するからです（図1）^{*1}。そして、この河岸段丘の縁は日当たりや水はけが良好で、その段丘下部（崖下）には川や湧水が存在し、上下水道・暖房器具等がない時代はとても生活しやすい場所であり、多くの遺跡が形成されています。

現在立川市内の遺跡は21か所が確認されています（図1）。今回は本年（2022年）3月に『大和田遺跡第1・3・4地点発掘調査資料 再整理報告書』を刊行しましたので、その資料を中心によんでいきたいと思います。



▲図1 立川市域の地形と遺跡の位置



大和田遺跡第1・3・4地点の調査と出土土器

大和田遺跡は多摩モノレール柴崎体育館駅周辺の柴崎町四丁目・錦町五丁目、地形的には青柳面という河岸段丘上（立川面より一段下位の段丘）に所在しています（図1 No.14）。

第1地点は昭和29（1954）年11月20～24日、第3地点は昭和46（1971）年10月14～27日、第4地点は昭和47（1972）年10月10日～11月5日に発掘調査が実施され、第1地点は縄文時代中期中葉から後葉（今から約5400～

4500年前)の竪穴住居跡3軒、第3地点は同時期の竪穴住居跡4軒、第4地点も同時期の竪穴住居跡4軒等が確認されています*²。

縄文時代は植物採集・狩猟を生活基盤とし、土器・石器・木器の生活道具を使用して、縄文時代中期は竪穴住居を構築し集落(ムラ)を形成していました。住居跡等、生活道具等は当時の社会を解明する資料です。考古学では、前者を遺構、後者を遺物と呼称しています。今回は土器を資料として取り上げます。

土器は粘土をこねて器を作り焼き上げ、煮沸や貯蔵等に使っていました。また煮沸用の深鉢形土器はほぼ全面に文様を描出しています。粘土製ですので「自由に作れる」はずですが、形や文様は一定の地域間で共通性を有するのです。当時は現在のような交通機関・通信手段はありませんでしたが、情報の共有化、仲間意識はしっかり存在しており、縄文社会が構成されていたのです。

大和田遺跡でムラが形成された縄文時代中期前半の勝坂式土器(写真1)は、南西関東・甲信地方を中心に広がっています。また、関東地方北東部は阿玉台式^{あたまだい}という別型式が展開しており、大和田遺跡には少ないながらも阿



▲写真1 大和田遺跡第3地点4号住居跡出土土器（勝坂式）



▲写真2 大和田遺跡第3地点1号住居跡出土土器（加曾利E式）

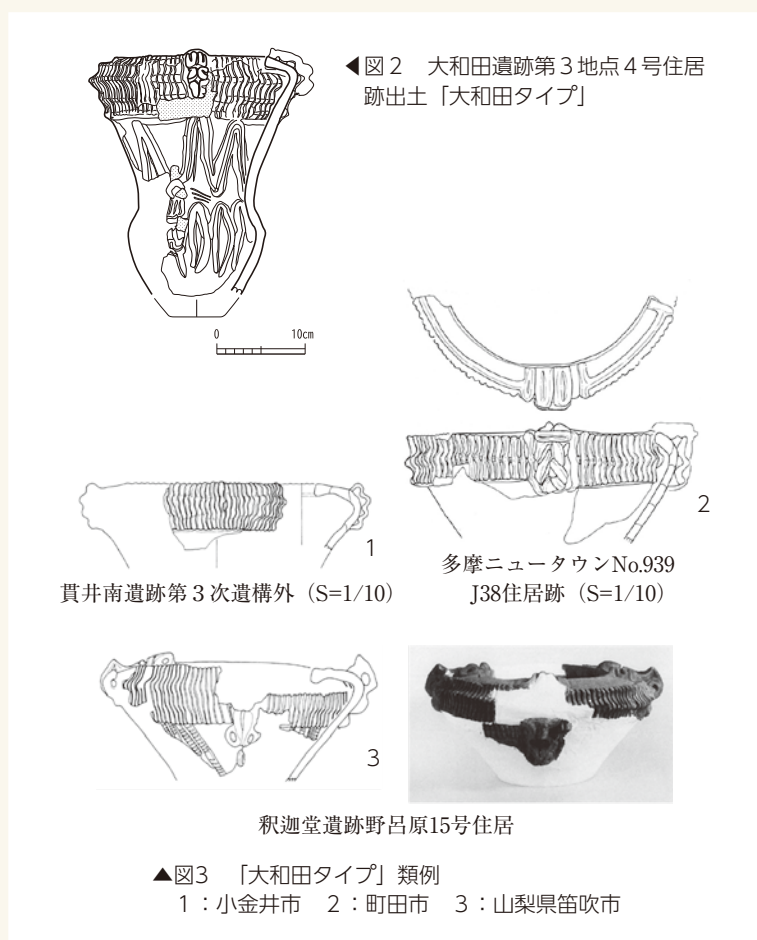
玉台式土器が存在しています。その状況は大和田遺跡だけではなく他遺跡でも認められ、交流・交易の状況が認められます。勝坂式の後の中期後半加曽利E式土器（写真2）はほぼ関東地方全域に広がりを持っており、勝坂式とは分布範囲が異なっています。なお、前段階に同型式を使用していた甲信地方には曾利式土器という別型式が展開しており、何らかの社会的変化があったようです。しかし、甲信地方と距離が近い大和田遺跡を含む多摩地域では曾利式土器が結構多く出土しており、交流は継続しています。

大和田タイプについて

第3地点4号住居廃絶後一括投棄された出土土器中の写真3の◁印（器裏面が上面）が、写真1中央・図2の個体です。この土器は今まで類例が少なく、また残存部分も小さい例が多かった勝坂式土器の1タイプです。図3に他遺跡の類例を図示しました。本資料は今までの類例に比べて全体形状、全体文様構成が把握可能な初めての例であることから、『再整理報告書』において、当タイプを「大和田タイプ」と呼称することを提案しました。



▲写真3 大和田遺跡第3地点4号住居跡遺物出土状況（立川市歴史民俗資料館像）



おわりに

今後縄文時代中期に止まらず、市内の旧石器時代から古墳時代までの考古資料の集成・分析を行う『資料編 先史』の刊行と、市外遺跡との対比検討を通して各時代の立川市域周辺の状況把握、及び立川市内遺跡の状況・実体・特徴の把握につなげていきたいと思います。

* 1 若葉町、幸町にお住まいの方は、東方に国分寺崖線が北西－南東方向に存在しますので当てはまりません。

* 2 これらの発掘調査は『調査概報』は刊行されたものの本報告書は未刊行でしたので、今回の立川市史編さん事業の一環として再整理作業を実施し、『再整理報告書』を刊行しました。なお、第2地点は昭和42（1967）年に発掘調査が実施され、縄文時代中期の住居跡1軒が確認されましたが、出土資料はその後散逸して現存していません。



令和4年4月～令和4年9月活動報告

月	日	活動内容
4月	5日	近世部会・近代部会：立川市歴史民俗資料館にて資料調査
	13日	近世部会・近代部会：砂川町にて資料調査
	15日	市民協働作業（立川の史料を読む会）
	22日	民俗・地誌部会：多摩川梨農家聞き書き調査
	24日	第1回・近代部会会議
	26日	近世部会・近代部会：明治大学博物館にて資料調査
5月	3日	民俗・地誌部会：砂川地区、五月節句・神社所在調査
	19日	近世部会・近代部会：砂川町にて資料調査（以降も継続的に実施）
	20日	市民協働作業（立川の史料を読む会）
	21日	民俗・地誌部会：多摩川梨農家聞き書き調査
	25日	市民協働作業（立川の史料を読む会）
6月	17日	市民協働作業（立川の史料を読む会）
	18日	第1回・現代部会会議
	22日	民俗・地誌部会：西砂町聞き書き調査
	23日	近代部会：国会図書館にて資料調査
	25日	民俗・地誌部会：多摩川梨農家聞き書き調査

月	日	活動内容
6月	27日	民俗・地誌部会：栄町聞き書き調査
	28日	民俗・地誌部会：市立幸小学校、校服調査
7月	3日	古代・中世部会：報告書担当者会議
	4日	民俗・地誌部会：呉服屋聞き書き調査
	6日	現代部会：特定部会会議
	10日	第1回・民俗・地誌部会会議
	14日	近世部会：高松町にて聞き取り調査
	26日	古代・中世部会：円成院蔵薬師如来坐像調査（小平市）
	27日	古代・中世部会：國學院大學博物館蔵柴田常恵拓本資料調査（渋谷区）
8月	31日	第2回・近世部会会議・西砂地域巡見
	7日	古代・中世部会：諏訪神社調査
	11日	古代・中世部会：報告書担当者会議
	16日	第17回編集委員会
	25日	第2回・現代部会会議
9月	1日	現代部会：特定部会会議
	11日	古代・中世部会：市内板碑調査

正誤表掲載のお知らせ

新編立川市史編さん事業で発刊した刊行物の内容に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
各刊行物の正誤表は立川市のホームページに掲載しています。

◆正誤表を公開している刊行物（※正誤表は随時更新します）

〈資料編〉

地図絵図
古代・中世
近世1
近代2
現代1
柴崎の民俗

〈調査報告書〉

鈴木家文書目録
柴崎の口承文芸
向郷遺跡竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書
大和田遺跡第1・3・4地点発掘調査資料再整理報告書

刊行物紹介のページはURLまたはQRコードからアクセスできます。

<https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/kankoubutsu.html>



市史編さん広報紙 たちかわ物語 vol.14

令和4年(2022)9月20日発行

発行 立川市

〒190-8666 東京都立川市泉町1156-9

編集 産業文化スポーツ部市史編さん室市史編さん係

〒190-0022 東京都立川市錦町3-5-22 YAZAWA DEUX ビル 201

TEL (042) 506-0021 / FAX (042) 525-1601

E-mail chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

URL https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/hensanshitu/shishi_top.html

印刷 有限会社立川システム印刷

[市史編さん広報紙に関するご意見・ご感想をお待ちしています]



市史編さんHPはこちら
からアクセスできます。

新編立川市史関連講演動画配信のお知らせ

令和3年3月に刊行された『新編立川市史 資料編 近代2』の内容に関連した講演の動画を公開しています。本動画では『資料編 近代2』の編集を担当した編集委員が、市内外の歴史資料を用いて近代立川の暮らしを紹介します。

第1部 保坂一房（立川市史編さん近代部会部会長／たましん地域文化財団歴史資料室室長）

1. 立川飛行場と立川町制施行

第2部 高江洲昌哉（立川市史編さん近代部会副部会長／神奈川大学講師）

1. 軍都立川での戦時下の暮らし —1940年～1945年—

2. 戦時下における人々の心性 —慰問文・愛国運動・戦勝祈願—

3. 供出と献納 —金属供出から産業戦士への「献納」まで—

第3部 小島庸平（立川市史編さん近代部会編集委員／東京大学大学院准教授）

1. 近代立川の農業のあゆみ

2. 戦前期の立川飛行場と地域社会

3. 膨張する立川の財政と大恐慌



令和2年度公開の「新編立川市史関連講演 暮らしのなかの祭りといのり —『資料編 柴崎の民俗』から」も配信中です。

第1部 榎本直樹（立川市史編さん民俗・地誌部会編集委員／日本民俗学会会員）

民俗の小さな祭り行事

〈正月行事〉

①年神

②門松

③雑煮

④サイノカミとどんど焼き

〈巡りくる神仏の行事〉

⑤平方のお獅子様

⑥和泉の地藏

第2部 伊藤 純（立川市史編さん民俗・地誌部会特定部会委員／川村学園女子大学講師（当時））

「立川の夏祭り」の変遷

—諏訪神社の獅子舞と祭囃子に注目して

①江戸・明治期の祭礼

②獅子組・棒組

③保存会の発足とその活動

④諏訪神社例大祭から「立川の夏祭り」へ



動画一覧のページは下記のURLまたはQRコードからアクセスできます。

（立川市のホームページ内にある立川市史のページへ飛びます）

<https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/douga.html>



令和4年度 新編立川市史関連講演会のお知らせ

共通テーマ：科学技術で探る立川市域の考古学(仮)

日時・会場：令和4年12月11日（日）女性総合センター・アイムホール

講師：谷口康浩（立川市史編さん先史部会部会長／國學院大學文学部教授）

青木 敬（立川市史編さん先史部会副部会長／國學院大學文学部教授）

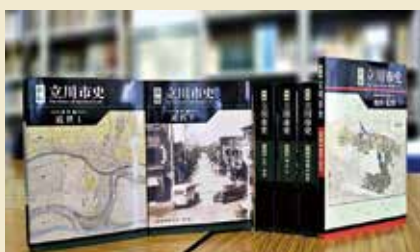
山本 華（株式会社パレオ・ラボ／同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）

詳細は広報たちかわおよび立川市ホームページにてお知らせします。



既刊好評発売中！ 新編立川市史刊行物は各種好評発売中です。

頒布場所：立川市役所本庁3階市政情報コーナー、立川市歴史民俗資料館、オリオン書房ノルテ店、ジュンク堂書店立川高島屋店



新編立川市史 資料編

古代・中世	B5判・カラー口絵16ページ・本文604ページ・上製本・価格2,500円
近代1	B5判・カラー口絵16ページ・本文604ページ・上製本・価格2,500円
近代2	B5判・カラー口絵8ページ・本文580ページ・上製本・価格2,500円
現代1	B5判・カラー口絵4ページ・本文579ページ・上製本・価格2,500円
柴崎の民俗	B5判・カラー口絵8ページ・本文535ページ・上製本・価格2,500円
地図・絵図	A4判・フルカラー・190ページ・上製本・DVD付・価格3,000円